

鶴来打刃物

歴史と特色

鶴来町は、やい刃の劔(つるぎ)と書かれたほど、刃物鍛冶が盛んで、江戸時代には加賀藩御用鍛冶をつとめた刀工一鉄も出た。また、白山麓と平野部との物資の集散地としても栄えた町で、農耕用から山林用、家庭用まで幅広い製品が作られていた。

明治以降も数軒あったが、現在"火作り"している鍛冶屋は1軒だけで、注文に応じ手作りの伝統を今に伝えている。

技法はほとんど昔のままで、松炭がコークス、ふいごが送風機に代わったぐらいで、稀少な野鍛冶である。

HISTORY & FEATURES

The town of Tsurugi, the name of which is a homophone of the Japanese word for sword, has been noted for cutlery forging since the Edo period. Since the town also flourished as a center of trade, many types of tools for agriculture, forestry and household use were produced. Now, there is one blacksmith's shop that is preserving the traditional forging techniques and producing custom-made cutlery.

情報 INFORMATION

主な生産地	白山市 (Hakusan City)
主な製品名	クワ、カマ、ナタ (Spades, sickles, choppers)
主な生産者	太田打刃物製作所 (Ota Cutlery Workshop) 〒920-2121 白山市鶴来本町4-2-5 TEL (076) 272-0111

Tsurugi Cutlery

歴史と特色

江戸で袷に小紋がつけられたのは1750年頃と言われ、その後金沢でも始められ文化年間(1800年頃)には型付職人14人と記録も残っており、型紙も彫られていたと思われる。

武家や町人の袷や慰斗目用として、小さな点で構成された模様で、型紙を使って染め上げられたが、その後次第に改良され、小柄、中柄、模様の大小などを彫り込み、加賀小紋として現在も伝えられている。また、明治の後半、友禅柄が型で染められるようになり、より複雑な型が彫られ、一枚の着物に400枚以上の型を作る場合もある。一色に1枚の型紙が必要なため、正確に同じ模様を何枚も彫り、染めを重ね何枚か続けて連続模様にするなど高度な技術を誇るが、型紙職人は細かい、根気のいる仕事の割に地味な裏方であるため、後継者は少ない。型紙に使う紙は伊勢形紙を使用し、文様を彫刻した後、漆で囲めたものと、漆を用いて紗とはり固めたものがある。

HISTORY & FEATURES

The technique of stencil pattern cutting first developed in the feudal days, for the production of simple kimonos with minute patterns called komon. In the modern age, the patterns have come to be used for Yuzen dyeing, which requires the use of one pattern sheet for each color, so hundreds of sheets with exactly the same pattern are needed for dyeing one kimono. Patterns are cut out of Japanese paper, and hardened by means of natural lacquer or cloth.

情報 INFORMATION

主な生産地	金沢市 (Kanazawa City)	主な製品名	手捺染型紙 (Stencil-pattern paper)
主な生産者	安田染型店 (Yasuda Stencil Pattern Shop) 〒920-0865 金沢市長町2-7-19 TEL (076) 223-3886		

Stencil Pattern Cutting

手捺染型彫刻